

タンポポの思い出

ニーちゃんは9才、ヒーちゃんは6才の女の子です。コロナウィルスがはやっているので長い間学校や幼稚園がお休みです。そこでおばあちゃんの住んでいる山梨県にきています。おばあちゃんの家に来てから3日目です。「散歩に行くよ。」とおばあちゃんはニーちゃんとヒーちゃんにいいました。

散歩のとちゅう、黄色いタンポポがたくさんさいているした。二人は東京の自分のおうちの近くでもタンポポをで知っていましたが、こんなにたくさんさいているのをせん。黄色いタンポポだけでなく、ふわふわと白い毛をせんあました。「おばあちゃん、このふわふわしたものは何なの？」とヒーちゃんはたずねました。

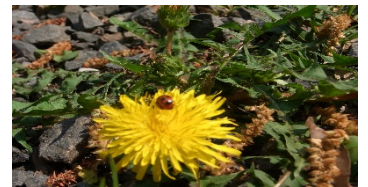


広い野原がありま見たことがあるの見たことがありましたのもたくさん



「これはね、タンポポが黄色い花がさかせたあとに、来年もさくように種をつくっているんだよ。綿毛といってね、ふわふわとどこかへ飛んで行って、そこでまた来年さくんだよ。」といいました。

とつぜん、ニーちゃんが「あれ！」といいました。黄色いタンポポの上になてんとう虫がいるのを見つけたのです。赤くてまあるいせなかに黒いてんてんがあります。



「ニーちゃん、よく見つけたねえ。」といっておばあちゃんは、てんとう虫の話をしてくれました。



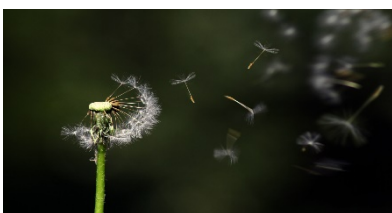
「てんとう虫には、たくさんの種類があつて、虫を食べるものや、なすやじゃがいもの葉をたべるちょっとこまったものもあるんだよ。このてんとう虫は、あぶら虫というものすごく小さい虫を食べる虫だね。」

話のとちゅう、ニーちゃんは、親指と人差し指でてんとう虫をつかまえようとしてました。しかし、てんとう虫は小さい上に、せなかがつるつるしているのでなかなかつかまりません。そうしているとき、てんとう虫がいなくなりました。

おばあちゃんが、「おやまあ、にげられたのかい！花の下をみてごらん。」といいました。てんとう虫はまあるい背中を下にしておちていました。土の上におちているのですが、小さい上に土の色とおなじようなので、ちょっと見ただけではわかりません。

「てんとう虫はね、鳥やほかの虫に食べられそうになった時、しんだふりをしてじっと動かないで身をまもることをしているんだよ。」

ニーちゃんは、もう一度つかまえようとしてましたが、さわったとたん羽をいっぱいひろげて飛んでいってました



しばらくして急に風がふいてきました。するとヒーちゃんとニーちゃんの近くで、白いふわふわが、あっちからもこっちからも飛び出しはじめました。二人はあわててにげだしましたが、かみの毛やシャツにいっぱいついてしまいました。おばあちゃんは、それを見て「はっはっはっ」とわらっ

ていました。

ニーちゃんとヒーちゃんに、またあたらしい思い出ができました。